

## 南区子育て支援ルーム「すくすくみなみ」開設5周年 座談会

開設5周年を記念し、運営に携わるボランティアの皆様と岡山南区長が、5年間でふりかえる座談会を実施しました。



開催日 平成23年1月21日(金)

場所 南区役所 A・B会議室

### ☆座談会出席者

- ㊦ 赤本博子さん、池田久美さん、谷口多美子さん、谷幸代さん、田中久美子さん、角替薫さん、土井正子さん、西田紀美枝さん（子育てサポート「Ma.Moon」の皆さん）
- ☀ 岡田典子さん、森口誠子さん（子ども文庫「ぴよぴよ文庫」の皆さん）
- ♥ 小柴千裕さん（子育てサークル「でこぼこママ」さん）
- ★ 高橋眞佐子さん（公立保育所・子育て支援拠点事業所「なんなんキッズ」さん）
- ☞ 南区社会福祉協議会 西澤珠世 主事，細川めぐみ 研究員
- ❖ 南区役所 岡山佳代子 南区長  
区民部 武田淳 総務課長，  
宮川時彦 まちづくり推進課長，千垣内麻衣 まちづくり推進課職員，  
保健部 相宗佳彦 健康づくり推進課長  
福祉部 大野晴美 支援課長，和久井佐和子 南子ども支援センター地域活動員，

### 【はじめに】

区 長： 皆さん、こんにちは。「すくすくみなみ」は、平成17年12月に開設されたのですが、早いもので5年経ちました。区民の方に、どういふ子育て支援が必要かとアンケートをとりまして、区民の皆さんの思いが、こいふ子育てルームにつながったこいふことです。

「すくすくみなみ」の特徴は区役所の敷地内にあることと、南区子ども問題連絡会、南区社会福祉協議会そして、南区役所の保健部、福祉部、区民部が一緒になってやっていることです。他にはないことなので、この支援ルームをこれからも大切にしていきたいなと思っております。今日は、和気あいあいといろいろなお話しをしていただけたらと思います。



#### 【ボランティアへの参加のきっかけ】

谷 口： 私は、「市民しんぶん」でボランティア講座（※1 文末に用語説明にあり）の募集を見て受講し、Ma.Moon の第1 期生として「子育てボランティア」の活動をしています。「すくすくみなみ」では、いろいろな出会いがあり、活動の機会を与えていただいたことに感謝しています。

小 柴： 私たち「でこぼこママ」は、平成21年の6月からボランティアとして参加しています。でも実は「すくすくみなみ」の開設前から、ワークショップに参加するなど関わっていたのです。私たちの思いは常時開設で、すごく期待に胸を膨らませた「すくすくみなみ」の開所でしたが、管理の問題等があつて、開設時の月2回の開所は「それではもったいなすぎるやろ。」みたいに感じていました。「協力するからもっと開いて」と何度もいい続けて、ボランティアとして参加するのに5年かかったというのが正直なところ。今、関わっていてとても大切な場所だと思っています。

岡 田： 「親子みんなでつながろう（※2）」のイベントにスタッフとして関わる中で、「すくすくみなみ」ができるというお話を聞いていました。月2回の開所をもっと増やしてほしいと私も思っていました。私は、平成21年6月から「びよびよ文庫」のスタッフとして、参加しています。

角 替： 私はボランティア講座2期生で Ma.Moon のメンバーです。「すくすくみなみ」に関わって新しい世界が広がったと感じ、喜んでいます。

田 中： 初めは、偶然チラシを見つけて参加しました。子育てや介護も終わって、いろ

いろな人にお世話になったので、恩返しだと思っています。

谷 　： 子育てと介護が終わり、何かすることがないかと思っていたところで田中さんに誘われて参加しました。

高 橋： 浜矢さん（前南子どもセンター※4：地域活動員）から、ボランティアの方々が頑張って活動しておられることを聞いていて、何か私たち公立保育所（地域子育て支援拠点事業担当）として、お手伝いできたらいいなということで、平成22年2月から「なんなんキッズ」として、お世話になることになりました。

西 田： 私は Ma.Moon の第1期生で開設時から参加しています。地域に引きこもりのお母さんがおられたら、「いいところあるよ」と教えてあげたいのと、地域でも何かできないかなと思って参加していて、すごく勉強になっています。

池 田： 私は2年くらい前から参加させていただきました。Ma.Moon の第4期生です。仕事をしながらのボランティアなので、何ヶ月かに1回しか参加できないのですが、楽しく参加させていただいております。

森 口： 普段は、こちらもボランティアで、引きこもりや不登校の中学生・高校生のカウンセリングをやっています。引きこもりや不登校の子どもたちは、赤ちゃんの間や幼児の間に、大切な何かを与えられなくて、中学生、高校生になってポキンと折れてしまうのだと思います。そういう大切なものを少しでも補えたらなと思ってお手伝いさせていただいております。



区 長： 5年経って、こうして関わっていただいているボランティアさんが増えましたが、全て善意で支えていただいている。こうした繋がりを、これからも大事にしていきたいと思います。

小 柴： 今、利用者の方からとても大事で素敵な場所だと聞いていますが、使う側のお母さんたちのニーズにとっては、まだまだ開所の回数が少ないと思うし、もっと多様な開所の仕方とかを考えて、お母さんたちがもっとたくさん、利用できたら

いいなと思います。たくさんの方から元気をもらっているの、関わってよかったと思っています。

岡 田： ボランティアの私たちが意見を出せる場（南区子ども問題連絡会※3）があり、声を聞き取っていただいている気がしています。

角 替： メンバーも新しい仲間ができた感じでとても楽しいし、子どもも大好きなので、「すくすくみなみ」の時間は、自分にとってとても楽しい時間なのです。細く長く無理をせずずっと続けて行きたいですね。私は管理の面でも、区役所の方のバックアップがあるのでいつも安心して活動できます。本当にいろいろ助けてもらえてありがたいです。

田 中： 友達も「すくすくみなみ」の活動に引き込み、一緒に活動していますが、ケガなく続けて行けたらいいと思います。

谷 田： 「すくすくみなみ」に来て若い力をもらって、元気になって帰ります。また、孫が遠くに住んでいて抱っこできないので、こちらで活動できて良かったです（笑）。ありがとうございます。

西 田： 「すくすくみなみ」でお母さん方の話を聞いていて、地域で「困ってるなら、こんな話あったよ」って言ってあげられるようになったことが、ここで成長させてもらったことかと思っています。活動で元気をもらっているの、その力をいろいろなことに発揮できるように、がんばっていきたいと思います。

池 田： 何回か利用されているお母さんが、「子どもがこれだけ歩けるようになったよ〜」とか成長を報告してくださるのがすごくうれしいです。

区 長： 皆さんの「すくすくみなみ」への思いは、孫を抱きしめるとか、幼児期の状況をどうするかとかいろいろですが、人とのつながり・・・、参加する人同士でつながっていることが嬉しいですね。また、皆さんが楽しんで活動されていること自体が嬉しいです。



【「すくすくみなみ」は親子にとってどのような場所?】

区 長： お母さん方は「すくすくみみなみ」でどのようにされていますか、そんな声をちょっと聞かせてください。

角 替： 自分のいろんな悩みを言って下さったり、「すくすくみなみ」に来たら家と違ってとってもいい子になり、私も心が落ち着きます」と言ってもらっています。

岡 田： 「子どもの場でありお母さんの場でもある」と、活動の中で感じています。お母さん同士を繋げる場所で、友達の輪を広げて行ける、その一つの出会いの場になっていけばいいのかなと思っています。

高 橋： 子どもさんもすごくかわいいと思うのですが、ボランティアをしておられるお姉さん方? (笑) も、あの部屋に入るとすごくかわいいですね。実年齢より10歳くらい若く見えて (笑)、保育所と違ってなんかすごくいいと感じます。

池 田： お母さん方が、赤ちゃん連れてこられて、お母さん同士で楽しく過ごしておられる。また、そのお母さん同士で情報交換をして、盛り上がっています。

土 井： 私の家は公園の隣です。今までなら、公園デビューというか、皆さん小さいお子さんを連れて公園でゆっくり話したりしていたのですが、この頃公園で子どもさんの姿を見ません。「すくすくみなみ」は、小さいお子さん同士や、同じ年のお子さんを持ったお母さん同士が出会い、情報を共有する場になっていると思うので、大変良い場所であると思っています。

赤 本： 「すくすくみなみ」のお母さん同士の話を聞いていると、「お友達になってくださいね」とか言い合って、すごく仲良く話しておられます。

谷 口： 新しく引っ越して来られた方でも、乳幼児健診のときに保健センターで紹介されて来られる方も多いです。それで、1回来られて、気に入ってまた何回も来られるのがうれしい。こっち側が機会をたくさん作って、「いろんなタイミングでいつでも来られるよ」という状況になったらいいなって思いますね。ぽっと来られるのが大事だと。





森 口： 私は、結婚して会社を辞めて家で子育てをするようになるまで、地域のことを何も知りませんでした。いざ産んでみると、不安ばかりで、どこに相談していいかわからない状態でした。半年たって、はじめて家から5分くらいのところに児童館があるのを知りました。行って、そこでいっぱいお母さんと知り合いになって、以後はすごく楽しく子育てしています。児童館があったから、いろいろな人に助けられたり、輪が広がったりできたのですが、近くにそういう所がないとどうなっていたかなと考えます。よくテレビで虐待とか怖いニュースが流れますけど、人ごとではないです。気軽に行ける支援の場は本当に大切だと思います。

区 長： 南区では、24歳以下で第一子を持つ女性が多いです。また、全体に母子家庭も増えてきています。また、引越しによる出入りも多いので、地縁というのが崩れるのです。だから「すくすくみなみ」の様な気軽な出会いの場が、大事なのですね。



【運営面で気をつけていること】

谷 口： 気軽さという点では、ドアを押して入るといのは結構、入りにくさが出るので、いつも開けっ放しにして、少しでも入りやすいように工夫しています。

小 柴： 気軽さはお母さんにとって本当に大切です。いろいろな人がぽっと入れるというためには、こちらがいろんな機会を持つといてあげないと。いろんなタイミングであそこを通る人がいるから、「いつでも来れるよ」という状況で待っていてあげられたらと思いますね。

岡 田： 長い時間開けていたら、時間に余裕がありほっこりとできますし、お母さんのペースで来れるかなと思いますが、スタッフもたくさん必要になるし…。

区 長： 一つの場所を開いて子どもをみるというのは、やはり責任があります。朝8時半から夕方5時まで開所できればいいのですが、体制の問題、運営してくれるボランティアさんの調整とか、いろんな課題をクリアしながら、前向きに整理していきたいと思います。



【これからの「すくすくみなみ」は】

「情報収集と広報」

高橋： 南区にお住まいの方は、一度は「すくすくみなみ」を経験している方が多いので、「すくすくみなみ」の広がりを感じています。しかし一方で、まったくご存じない方もまだおられますので、もっと「すくすくみなみ」をアピールして、存在を認めてもらえるようになればいいなと思っています。

岡田： 森口さんのように、子どもが産まれる直前まで働いている方が多く、もともと情報があまりない。自治会に入らない方も多く、そうすると子ども会にも入らない。お母さん方が、情報がない中で、いくら探しても行く先が見つからない状況があると思います。

区長： 課題は情報発信をどうするのかなんですね。回覧板などの情報発信もありますが、自然に「こういう場がありますよ」というのをいろんな所で発信していくほうが、自然に受け入れられる。また、南区地域子育て支援ステーション事業の「公園であそび隊」という取組や、各保育園の園庭開放などの活動など、いろいろな機会もありますが、これらをつなぐのが私たち行政の役目かなと思います。

小柴： 15年間、児童館で子育てサークルをしているのですが、来られるお母さんはいいのですが、ここに来られないお母さんたちをどうするかというのがあって。でも、そこのところは「私たちサークルには無理！」みたいな。ほんとうに情報を届ける、出会えるってことはすごく難しいなっていつでも思いますね。

角替： 私はおせっかい精神で、近所の若いお母さん方に、「こんな活動あります。支援ルームをやっています。」とか、「親子みんなでつながろう」ありますよと言っています。みんな喜んでくれますし、だんだん情報が伝わっていることを実感しています。

赤本： 「親子みんなでつながろう」のときに、周知ポスターを近所の家に貼らせて貰

ったら、当日、結構ポスターを見たという人が来てくれて、これいいな—と思っていました。地域の協力であちこちにポスターを貼らせて貰うのはいいと思います。

和久井： 「子ども支援センター（※4）」の主な取り組みの一つが、子育てに関する情報収集と情報発信です。これからも幅広い情報の紹介を目指していきます。



「地域への広がり～地域の子どもは地域が育てる～」

区 長： 町内会の話になるのですが、各学区の自治連の皆さんも、「地域の団結力が少なくなっている。」との課題は認識しておられます。やはり、地域が一体にならないと、子育て支援ひとつとっても難しいなと思っています。

西 田： 私も、「地域が地域の子どもを育てなあかん」と思いますね。自治会に入る方が少なくても、地域の子どもは地域で守っていく。地域の住民がどれだけ地域の子どもの顔を知っているかということですね。安全にもつながるし、見守りにもつながるので、今そういう働きを祥豊学区ではね、ちょっとしつつあります。

赤 本： この前、「親子みんなでつながろう」のイベントで、初めて地域の主任児童委員さん、民生委員さんにお会いしましたが、どちらも子育てしていたころにお世話になった方々でした。私、何も分からないままボランティア活動していて、すごく反省して。小さな学区なのに、地域がほとんどつながってないと感じます。区長が言うとおられるように、もっといろんな意味で地域も成長せなあかんって思います。

区 長： 学区によっては、安心安全で「小さなおせっかい」という取組があるところもあるしね。今ある既成の仕組みを上手につないだら、私たち行政としても、いいものができると思っています。

大 野： 情報発信の場であることが非常に大事と思うので、さらに充実に努めたいと思



います。それと敷居の低い、ほんと安心のできる場所というコンセプトを守って  
いきたい。また、時間のかかることであると思いますが、地域との連携というこ  
とにも徐々に取り組んでいきたいと思います。

西 澤： イベントのアンケートで、お母さん方から、「地域での顔のつながりが今は少な  
いので、もっとそういう機会が増えたらいいな」という意見があります。地域で  
子育てサロンを作っていくことが重要なことだと思います。子育て中のお母さん  
が考えてらっしゃること、思いを大切に、お母さん方がもっと主になってで  
きるような活動もできたらいいなと思います。

区 長： 私の思いは、皆さん方の協力あってのこの支援ルームだと思っています。今後  
もこうして行政とボランティアの皆さんがつながりをもって、「地域の子どもをみ  
んなで育てるんだ」という熱い思いを、凝縮していきたいなと思っています。そ  
して、今度は地域でも、皆さんが中心となって発信していただきたいと思  
っています。

来年度から始まる南区基本計画（第2期）のなかでも、地域と行政そして、い  
ろいろなボランティアの皆さんとご一緒に、様々な取組を考えたいと思います。  
地域力（みなみ力）をキーワードに、南区を「住みたいまち」にすることを目指  
したいと思っています。皆さん方の協力がなくては、いくら行政が旗を振って  
も誰も付いて来なかったら何もできません。本当に地に足をつけた計画を推進し  
ていきたいと思いますので、皆さん方のご協力を今後とも末長くよろしくお願い  
します。



## 用語説明

### (※1) ボランティア講座

子育てに関する地域活動に積極的に参加協力していただけるボランティアの方への講座。年1回市民しんぶん（区版）にて募集。保育所や「すくすくみなみ」での実習，医師，保健センター保健師等による講義を実施。（南区子ども問題連絡会の事業）

### (※2) 「親子みんなでつながろう」

南区子ども問題連絡会と南区社会福祉協議会が主催の子育てイベント。

### (※3) 南区子ども問題連絡会

南区の児童問題に関わる関係機関・団体等で構成されていて，児童虐待はもとより，子育てなど広く児童問題に関する活動を推進し，関係機関の連携と，問題解決のためのネットワーク構築を目的としている。

### (※4) 子ども支援センター

区域内の子育ての相談・支援の拠点として，京都市内の各区役所・支所の福祉部（福祉事務所）に設置されている。子どもと家庭に関する総合相談を行っている。